

目的

・「英語で学ぶ」をキーワードとして、教科書の題材と生徒、他教科と英語科、小学校外国語活動と中学校英語科をつなぐ取組を行うことにより、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の総合的なコミュニケーション能力を育む。

取組の内容

- 1 発問の工夫  
教科書の題材を生徒がより身近に捉え、英語で知識を身につけられるよう、また、それぞれのテーマに基づいて自分の意見を英語で表現できるよう発問を工夫する。
- 2 「英語で学ぶ」工夫  
生徒が発問に答えることで題材内容の概要(要約)を英語で表現できるよう授業展開を工夫する。
- 3 外国語活動と英語科の円滑な接続  
教科横断的なつながりを模索し、各教科で学習した内容を英語学習と結びつけ、身につけた知識を引き出す。

成果③

○生徒の英語力の向上  
無機質な例文等を覚えることでは定着が不十分となるが、内容重視型の授業において意味ある言葉として英語を学習することにより定着が図られる。

【内容重視型の授業に取り組む前と後の定期テスト結果の比較】

	Before	→	After
外国語表現の能力	53%		54%
外国語理解の能力	66%		72%

成果①

- 発問中心の英語授業を展開したことにより、生徒が自分の知っている英語を用いて、答えようとする態度が育成できた。
- 発問を中心として、ディクトグロスの手法で教科書の題材内容を書かせたところ、生徒の書く量が増えた。
- 1ページずつ進める従来型の授業展開から単元を見通した指導計画を立てることができるようになった。

成果②

- 英語の授業に対して関心・意欲が高まった。
- 根拠を示して、自分の考えを表現できる生徒が増えた。

【英語に関する意識調査】

英語の授業について関心が高い		
	9月	11月
ア そう思う	60%	71%
イ あまり思わない	32%	25%
ウ 全然思わない	8%	4%

英語で自分の考えを表現できる		
	9月	11月
ア 根拠を示して英文で表現できる	8%	17%
イ 1,2文の英語で表現できる	56%	54%
ウ 単語だけで表現できる	28%	17%
エ できない	8%	12%

今後の課題・方向性

- 発問の工夫のより一層の充実  
「事実発問」だけではなく、「推論発問」、「評価発問」をすることにより、教科書の題材をとおして「学び」を生み出すことにより、生徒の英語力の向上を図る。
- 中間言語の発達を促す授業展開の研究  
マンネリ化しない「くり返し学習」を通して、教科書の題材内容やそれに付随する背景知識をモノログとしてくり返させ中間言語の発達を促す。
- 「書く」指導のより一層の充実  
発問をとおしてディクトグロスで教科書の題材内容を書く指導を行ったが、表現の能力を向上させた生徒は微増であった。ディクトグロスを継続し、4技能を統合させる授業展開が求められる。